

『枕草子』周作人訳と林文月訳との比較

——「頭弁の、職にまゐりたまひて」段前半部を中心に——

顧 宇豪

『枕草子』は『源氏物語』と並んで、平安文学の双璧と言われている。その影響力は海外にまで及び、多言語に翻訳され、日本古典及び日本文化の発信に大いに寄与している。各国語による『枕草子』の翻訳を分析することにより、日本古典に対する海外の認識と評価を知ることができよう。

発表者は中国出身者であるため、この度は『枕草子』の中国語訳に注目したい。『枕草子』の中国語訳は二十世紀後半から始まり、周作人氏訳（略称「周訳」）と林文月氏訳（略称「林訳」）という二種が存在している。先行の周訳は一九六四年に完成したが、一九八八年に初出版された。その内実については、張培華氏の論考「周作人訳『枕草子』の経緯と実態——「未出版」を中心に——」（2021年）が詳しく論じている。後行の林訳は一九八六～一九八八年に台湾大学の『中外文学』に連載された。二つの訳はほぼ同時期に公開されたわけであるが、林訳（譯林出版社、2011年）の「洪範新版序」によると、周訳を全く参考にしなかったという。両訳の訳者の経歴はそれぞれ日中の近現代史と深く関わっており、各々の日本語の習得及び日本古典との触れ合いは興味深い。また、両訳者は中国大陆と台湾という異なる環境において翻訳作業を行ったため、日本古典を享受する方法や中国語の使い方などにも違いがある。先行研究について、周訳は前述の張氏の論考があるが、訳文の内容には詳しく言及していない。林訳は直接的な先行研究は管見の限り存在しないが、林訳『源氏物語』に関する先行研究が参考になる。従って、次の段階としては、周訳と林訳とを比較しつつ、訳文の内容を詳細に研究していくことが必要であろう。

本発表は、両訳者の経歴及び所在環境の違いに注目しながら、周訳と林訳との比較検討を行う。さらに、両訳それぞれの不足を洗い出した上で、新たな『枕草子』中国語訳の生成へ向けて建設的な意見を述べ、日本古典の翻訳への関心を喚起したい。

『枕草子』周作人訳と林文月訳との比較

——「頭弁の、職にまゐりたまひて」段前半部を中心に——

顧 宇豪

はじめに

- 枕草子研究会ほか『枕草子大事典』（勉誠出版、二〇〇一）「枕草

子の外国語訳」（津島知明）

アウトン『日本文学史』（一八九九）

←

フランス語抄訳本（一九二八）

←

ボシヤールの仏訳（一九三四）、ウェイリーの英訳（一九二八）ほか

←

モリスの英訳（一九六七）、独訳、中国訳：周作人、林文月、露訳ほか諸国語訳

【訳本情報】

周作人（一八八五～一九六七）

翻訳時期：一九五九～一九六一

底本：池田亀鑑校『枕草子春曙抄』（岩波文庫、一九三二、能因本）

初版：『日本古代随筆選』（人民文学出版社、一九八八）

引用文献：『枕草子』（中国对外翻訳出版社、二〇〇〇）

評価：安藤更生宛手紙「草率譯了」（一九六一・二二）、鮑耀明宛手紙「此乃係稻梁之謀、覺得甚是粗糙」（一九六一・四）、自著『知堂回想録』

「始終覺得不滿意、覺得是超過自己的力量的工作」

林文月（一九三三～二〇二三）

翻訳時期：一九八六～一九八八

底本：松尾聰ほか『日本古典文学全集 11 枕草子』（小学館、一九七

四、能因本）

初版：『中外文学』（一九八六・七～一九八八・八）

引用文献：『枕草子』（譯林出版社、二〇一二）

評価：学術上の評価は不明。

【先行研究】

- 張培華「周作人訳『枕草子』の経緯と実態——「未出版」を中心に——」、『国文学研究資料館紀要 文学研究篇（47）』、三一～六一頁、二〇二一年三月。

- 姚継中『源氏物語』に関する翻訳検証研究の必要性… 豊子愷、林文月、姚継中の翻訳した『源氏物語』和歌を例として、『東アジア研究 13』、二〇一五年三月。二八七～三〇二頁。

【凡例】

- ① 略称：『枕草子春曙抄』Ⅱ【曙】、『日本古典文学全集』Ⅱ【全】、周作人訳Ⅱ【周】、林文月訳Ⅱ【林】。
- ② 便宜上、漢字は全て日本通用字に近い繁体字に統一した。
- ③ 底本は共に能因本であるため、異同は必要な箇所のみ表記する。
- ④ 訳文後の□内の日本語訳は発表者によるものである。

一、平安時代宮廷社会に対する認識

1、

【曙】頭の辨の職に参り給ひて、物語などし給ふに、夜いと更けぬ。

【全】頭弁の、職にまゐりたまひて、物語などしたまふに、夜いとふけぬ。

【周】頭弁「行成」到中宮職院裡来、説着話的時候、夜已經很深了。

〔頭弁「行成」は中宮職院のうちに来て、話しているところ、夜すでにかなり深くなった。〕

【林】頭弁来到後宮、同我閑談之間、夜已深沉。

〔頭弁が後宮に来て、私と閑談の間、夜はすでに深くなった。〕

①職…【周】中宮職院―【林】後宮

②敬語表現

2、

【曙】「明日御物忌なるに籠るべければ、丑になりなば悪しかりなん」とて参り給ひぬ、

【全】「明日御物忌なるに籠るべければ、丑になりなばあしかりなむ」とてまゐりたまひぬ。

【周】頭弁說道：「明天是主上避忌的日子，我也要到宮中来值宿，到了丑時，便有点不合適了。這樣說了，就進宮去了。」

〔頭弁は言った：「明日は主上避忌の日（なので）、私も宮中に宿直しにくる必要がある（から）、丑の刻に到ったら、すなわちいささか不適切である。」このように言つて、すなわち内裏に進んでいった。〕

【林】明日值宮中忌避方位之日，在丑時以前，須得趕回皇宮才行。說完，又回宮去了。

〔「明日、宮中忌避方位の日にあたり、丑の刻以前に、皇宮に急いで帰る必要がある。」言い終わつて、また宮に帰った。〕

①御物忌…【周】主上避忌―【林】宮中避忌

②籠るべければ…【周】宮中に宿直しにくる必要がある―【林】皇宮に急いで帰る必要がある

③まゐりたまひ…【周】進宮―【林】回宮

二、本文対応

3、

【曙】つとめて、藏人所の紙屋紙引き重ねて「後のあしたは残り多かる心地なんする。

【全】つとめて、藏人所のかや紙ひき重ねて、「後のあしたは、残りおほかる心ちなむする。

【周】第二天早晨，用了藏人所使用的粗紙重疊着，写道：「後朝之別實在多有遺憾。」

〔翌日早朝、藏人所が使用する粗紙を用いて重ね畳んで書いた：「後朝の別れは実に多くの遺憾があった。〕

【林】翌晨，取用藏人所內的公文紙，重疊兩張，書写道：「今日似有言不盡意處。」

〔翌朝、藏人所内の公文紙を取つて、二枚を重ねて、書写した：「今日日は思う存分に話しきれないところがあるようだ。〕

① 紙屋紙…【周】粗紙—【林】公文紙

② 後のあしたは残り多かる心地なんする…【周】後朝の別れは実に多くの遺憾があつた—【林】今日は思う存分に話しきれないところがあるようだ。

4、

【曙】夜を通して、昔物語も聞え明かさんとせしを鶏の聲に催されて

【全】夜とほして、昔物語も聞え明かさむとせしを、鶏の声にもよほされて

【周】本想徹夜講過去の閑話、直到天明、乃為鶏声所催、「匆匆的回去」。

〔元々は徹夜して過去の閑話を話して、空が明けるまでいたいが、乃ち鶏の聲に促されたところ、「匆々に帰っていった。」〕

【林】本欲徹夜与君共話往事、奈雞鳴頻催！

〔元々は徹夜して君と共に昔話を話したかったが、いかんせん鶏鳴が頻りに促した！〕

① 明かさん…【周】空が明けるまでいたい—【林】省略

② 鶏の聲に催されて…【周】乃ち鶏の聲に促されたところ—【林】いかんせん鶏鳴が頻りに促した！

5、

【曙】といとみじう清げに、裏表に事多く書き給へるいとめでた

し。

【全】と、いみじう清げに、うらうへにことおほく書きたまへる、いとめでたし。

【周】实在写得非常潇洒，且与事实相反的（当作恋人關係），縷縷的写着，实在很是漂亮。

〔実に非常に潇洒に書いており、且つ事実と相反して（恋人關係として）、縷々と書いて、実にはたいへん綺麗であつた。〕

【林】那字迹十分清麗，内容卻大大与事实不相符合，妙極了。

〔その筆跡は大変清麗だが、内容は却つて事実と大いに符合しない。極めて素晴らしかった。〕

① 裏表に…【周】且つ事実と相反して〔恋人關係として〕—【林】内容は却つて事実と大いに符合しない

② 事多く書き給へる…【周】縷々と書いて—【林】欠落

三、和歌の翻訳

6、

【曙】「夜をこめて鳥の空寝ははかるとも世に逢坂の關は許さじ」

【全】「夜をこめて鳥のそら音ははかるとも世に逢坂の關はゆるさじ」

【周】在深夜裡，假的鶏叫

雖然騙得守関的人，

可是逢坂関却是不能通融啊！

〔深夜の中において、偽の鶏鳴は、

関を守る人を騙せると雖も、

しかし逢坂関は却って融通が利かないのだよ！

【林】「夜未央兮雞已啼，

仿声騙啓彼関守，

逢坂未許兮豈癡迷。

〔「夜尽きずに鶏既に鳴いて、

声を真似してかの関守を騙して（関戸を）開くようにさせて、

逢坂未だに許さず、あにや痴れ迷う。」

①【周】現代中国語への直訳―【林】三行詩（大風歌）

● 林文月『源氏物語』の中国語訳について、京都大学大学院文

学研究科『世界の中の「源氏物語」…その普遍性と現代性』（臨川

書店、二〇一〇）所収

林訳の問題点(1)「夜未央」―夜をこめて(2)「已」(3)「癡迷」

②関守は騙されたか？ ↓後文「心かしこき関守」

7、

【曙】「逢坂は人越えやすき關なれば鳥も啼かね[㊟]あけて待つとか」

【全】逢坂は人越えやすき関なれば鳥も鳴かぬ[㊟]に[㊟]あけて待つとか

【周】「逢坂是人人可過的関，

鶏雖然不叫，

便会開着等人過去的。」

〔「逢坂は人々皆通過できる関で、

鶏は鳴かずと雖も、

すなわち開いておいて人の通過を待っているのだ。〕

【林】「逢坂関兮人易過，

據云不及雞啼鳴，

関戸已啓兮相待和。」

〔「逢坂関は人通り易く、

噂によると鶏の鳴くに及ばずとも、

関戸既に開いて待っている。〕

①【周】現代中国語への直訳―【林】三行詩（大風歌）

②【林】「鶏の鳴きに及ばずとも、関戸既に開いて」

③【林】「待和」

四、中国語の問題・林訳における造語

8、

【曙】心かしこき關守待るめ[㊟]りと聞ゆ。立ち返り、

【全】心かしこき関守待るめ[㊟]れと聞ゆ。立ち返り、

【周】這裡是有着很用心的守関人在哩。又隨即送來回信，「乃是一首

返歌。」

〔ここには心の利く関守がいるのよ。〕またすぐさま返信が送られて

きた。〔乃ち一首の返歌…〕

【林】此地有心明神清之関守相候也。很快地，又有回音如下：

〔この地には賢くて分別のいい関守が待っているのである。〕すぐに、

また以下のような返信があった…〕

①心かしこき…【周】用心―【林】心明神清

②【周】回信―【林】回音